

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊集会プログラム（隊集会実施計画書）に基づき実施される隊集会を実習体験する。
2. 隊集会の評価ができる。

指導上のねらい

1. 隊集会実施計画書に基づき成人指導者の立場で隊集会を実習体験させる。
2. 体験を通じて、多くの人の協力が大切であることに気付かせる。
3. 実施後の評価が次の隊集会を良くすることに繋がることを理解させる。
4. 実習体験を通じて、ビーバー部門の各種動作・合図が正しくできるようにする。
5. スカウト教育法の7つの要素が、ビーバースカウト活動（隊集会）の中でどのように関わっているかを確認させる。

準備品(資材・資料)

- ・ハンドアウト①「年間プログラム」（§ 3で使用したスタッフが作成したもの）
- ・ハンドアウト②「隊集会実施計画書」（スタッフが作成したもの）
- ・ハンドアウト③「隊集会実施記録書」（スタッフが作成したもの）
- ・ワークシート「隊集会実施記録書」
- ・日本連盟発行書籍「基本動作・礼式の基準」
- ・隊集会実施計画書に基づく必要な資材

セッション展開

時間	セッション内容	指導上の留意点・ 準備品・支援
15:30	1. 導入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（5分） ・ このセッションで何を行うか見通しをもたせる。 ○ 隊集会実施計画書に基づき成人指導者の立場で実習体験することで以下のことを理解してできるようになる。 ・ 多くの人の協力の必要性 ・ 実施後の評価の重要性 ・ スカウト教育法の7つの要素の関わり ・ ビーバー部門の各種動作・合図	
15:35	2. 実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・（40分） ① ビーバー隊の基本動作について確認実習する。 ・ 集散法・・ビーバーの発達段階に絡めて説明する。 ・ 歌「みんなで大きな輪をつくろう」 ・ ビーバーコール ・ ビーバースカウトの敬礼・サイン・祝声 ② 隊集会実施計画書を配布し簡単に確認する。	基本動作・礼式の基準 HB p. 28～ 実施計画書

<p>15:45</p>	<p>・スカウトの立場で参加するが、あくまで成人としての体験であることを確認する。</p> <p>移動：研修室→歴史観</p> <p>③隊集会の実習を行う。</p> <p>「お宝をゲットしていちにんまえの海賊になるぞ！」</p> <p>・みならい海賊のうでだめし</p> <p>う1：ゆうかん・・歴史観に来ている人の名前を集めてくる。</p> <p>う2：かんさつ力・・同じ葉を探してくる。(フロッタージュした葉を見つける。)</p> <p>う3：けいそく・・一番太い木を見つける。</p> <p>・見つけた宝の地図で宝をゲットする</p>	
<p>16:15</p>	<p>3. 評価と振り返り・・・・・・・・・・・・・・・・（10分）</p> <p>○ 隊集会実施計画書を見ながら、プログラムには、どのような要素が含まれていたか振り返る。</p> <p>個人作業→班作業→発表</p> <p>○ 実習で気づいたことを基に § 4 で作成した隊集会実施計画書を修正加筆し、さらによりものに作り上げる。</p> <p>○ 隊集会実施後には、必ず記録を残し、団へ報告をすることを知る。</p> <p>・今後の隊集会のレベルアップのため・団から信頼を得、協力を得るため。</p> <p>○ 実施計画書を見ながら振り返りをし、隊集会実施記録書に記入する。(指導者の立場で) ・・時間があれば</p>	<p>7つの教育法の関連図</p> <p>OHP用紙</p> <p>付箋紙・模造紙</p> <p>参加者が作成した隊集会実施計画書</p> <p>隊集会実施記録書</p>
<p>16:25</p>	<p>4. まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・（5分）</p> <p>(1) 隊集会実施計画書は活動の目標を達成するためのものであり、スカウトの成長のためになくしてはならない。</p> <p>(2) 活動には、ビーバースカウトの「やくそく」とビーバー隊の「きまり」、ビーバー年代の特性、安全、進歩制度がはんえいされていなければならない。</p> <p>・成長を促す8要素</p> <p>①夢②想像力③友情④勇気⑤信じること⑥冒険⑦楽しさ⑧感動</p> <p>(3) スカウト運動の基本は野外での活動であり、ビーバースカウト活動でも例外ではない。</p> <p>(4) ビーバーやカブでどれだけいろいろな体験をすることが、ボーイとなって様々な事に積極的に取り組めるスカウトとなる素地をつくる。</p> <p>(5) 臨機応変な対応ができるよう常日頃の研鑽が必要である。</p>	